

【石 川 町】

校務D X計画

当町は、1人1台端末の導入後、校務支援システム、授業支援アプリ、デジタルドリル、学習eポータル等を活用し、校務と学びのデジタル化を進めてきた。

また、令和5年度には健康観察アプリ、令和6年度には保護者連絡アプリを導入し、段階的に校務のデジタル化を進めている。

校内においては、それらのサービスを活用し、伝達事項、各種資料及び教材をクラウドで共有できる環境を整備している。

このように、各種デジタル化を進めてきたが、学校現場においては、依然として紙ベースの文書や資料が多くみられるのも事実であり、業務の円滑化・効率化の観点から、各種デジタル化及びペーパーレス化を積極的に進めていく必要がある。

「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、具体的な取組みを次のとおり定める。

1. ゼロトラスト環境の構築

(1) 現状と課題

当町では、校務支援システムをプライベートクラウドで運用しており、その使用は校内ネットワーク内に限られている。

校務支援システムは、教務、保健、学籍、成績管理など幅広い業務で利用しているため、校務DX化の重要なツールであり、校務のロケーションフリー化を推進する上でもパブリッククラウドで運用できることが望ましいが、システム内のデータが個人情報等の機微な情報であるため、セキュリティの確保が課題となる。

(2) 解決策

現在のサーバやネットワーク機器の更改時期に合わせ、ゼロトラストセキュリティに基づくネットワークの構築を検討していく。

2. ペーパーレス化の推進

(1) 現状と課題

当町では、県が提供するFCSや統合ファイルサーバにより、教育委員会と学校、学校間のやり取りにおいては、個人情報を含む機微な情報も含めて安全にデータのやり取りができる環境を整備している。

また、それらのツールを活用した校内での文書や資料の共有も進んでいるところであるが、校

内での決裁、保護者への通知、外部機関とのやり取りにおいてペーパーレス化が進んでいない。

(2) 解決策

(1) での取組みと併せて、外部と安全にデータのやり取りができる外部ストレージサービスの導入を検討していくとともに、校務支援システムや保護者連絡アプリなど、既存のツールを活用することにより解決できるものについては、ICT 支援員による校内研修や教育委員会からの提案によりペーパーレス化を推進していく。

また、押印はペーパーレス化の大きな阻害要因となるため、条例や規則の改正により見直しを図ってきたが、いまだ紙ベースでの文書が残っているため、引き続き学校と協議し、押印が不要なものについては押印を廃止して電子データへ置換していく。

3. 教育ダッシュボードの構築

県が市町村教育委員会への提供を検討している教育ダッシュボードの動向を確認しつつ、校務支援システムと学習系アプリの効果的な統合ダッシュボードの構築を検討していく。